

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472000775	事業の開始年月日	平成15年9月1日
		指定年月日	平成15年9月1日
法人名	株式会社 へいあん		
事業所名	グループホーム「へいあんなでしこ」		
所在地	(〒254-0825) 神奈川県平塚市撫子原6-30		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和1年10月17日	評価結果 市町村受理日	令和2年1月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お年寄り同士の関係を繋げることに力を注ぎ、スタッフは開放的で柔軟で思いやりがあり、敏感で心の落ち着きのある介護者を目指しています。お互いに成長していけるかわりを創り、お客様が今持っている力を十分に生かして、一瞬一瞬を大切に寄り添うことを私達の目標にしています。
地域ぐるみで認知症をもつ方が安心して暮らせる町づくりに取り組み、認知症の方を介護しているご家族を対象に介護者同士の相談、交流を目的とした息抜き、リフレッシュできる場としての認知症介護者サロンをなでしこの地域交流室にて開催しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和1年11月20日	評価機関 評価決定日	令和1年12月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は、JR平塚駅南口よりバスで10分、「下花水橋」バス停下車、徒歩5分の閑静な住宅街に立地している。建物は南向きの2階建てで、明るく広々としており、各ユニットはダイニングルームを中心として回廊式の構造になっている。事業所は冠婚葬祭などを行う大手法人の介護部門が、最初に手掛けたグループホームで、家族会では懐石料理や生花などの提供を法人から受けている。
【利用者一人一人に寄り添う支援の実践】
「私たちは愛をもって、穏やかなまなざしと優しい心で接します」など3項目からなる行動指針のもと利用者の意思を大切にして、一人一人に寄り添い、丁寧なサービスを提供している。要望に応じて散歩や喫茶店に行ったり、ドライブや外食を楽しんでいる。利用者は主体的に洗濯物を干したり、畳んだり、下膳などしている。看取りについては利用者・家族の要望に応じて指針に沿って対応し、実施時には「看取り介護の同意書」などを取り交し、家族との意思の疎通を図っている。
【地域との連携強化】
撫子原自治会に加入し、お祭りや避難訓練などに参加している。保育園児との交流もあり、運動会や生活発表会に招待されている。健康体操、清掃、アロママッサージ、絵画、オカリナ、ギター、日本舞踊、アトリップなど多くのボランティアの来訪があり、利用者と一緒に交流している。地域包括支援センターの協力で毎月「認知症介護者サロン」を事業所内で開催し、地域の方が参加している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム「へいあんなでしこ」
ユニット名	はまゆう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム「へいあんなでしこ」
ユニット名	野あざみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族、ご入居者、職員全員の思いがこもった理念を実践しています。ミーティングや申し送り、関わりの振り返りの時にも理念に必ず触れ、確認しあうようにし、具体的ケアについて意見の統一を図っている。毎日朝礼にて理念を唱和している。	6年前に、開設以来の理念を変更し、「私たちは愛をもって、穏やかなまなざしと優しい心で接します」など3項目からなる行動指針を管理者と職員で作成し、事業所の理念としている。利用者の意思を尊重し、一人一人に寄り添うことを大切に、丁寧なサービスの提供に努めている。利用者は主体的に洗濯物を干したり、畳んだりしている。法人理念や事業所の行動指針は会議室などに掲示して、職員で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園児の訪問があり、日常的に散歩や買い物等に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。お花や畑の季節の野菜をいただいたり、近隣に住む人達と触れ合う機会がある。	撫子原自治会に加入し、お祭りや避難訓練に参加している。保育園と交流して運動会や生活発表会に招待されている。お祭りで地域の方とお茶を飲んだり、散歩中に話をしたり、近所の方から花など頂くこともある。健康体操、清掃、アロママッサージ、絵画、オカリナ、ギター、日本舞踊、アートリップなど多くのボランティアが定期および不定期に来訪して、利用者とは交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や通所介護において、地域の人々の相談に応じている。 平成25年10月より、認知症介護者サロンを月に一度開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や、懸案事項についてその経過を報告し、一つひとつ積み上げていくようにしている。また、これまでの評価結果を踏まえて、現在取り組んでいる内容についても報告し、また、困難事例についても意見をもらうように話し合いをしている。	2ヶ月ごと、年6回奇数月に開催している。利用者、家族、自治会関係者、地域包括支援センター職員、民生委員、薬剤師、認知症サポーター、ボランティア、法人職員、管理者、職員などが参加している。毎年9月には、家族会と一緒に開催し、法人から懐石料理や生花などの提供を受けて、多くの方が参加している。会議内容は事業所の運営や事故報告、消費税に伴う自己負担額の増加についての説明、地域情報の情報交換などである。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的なグループホーム連絡会に参加している。市の介護相談員派遣を依頼し、連携を深めている。	平塚市介護保険課が窓口で、運営推進会議の議事録や外部評価報告書を持参し、連絡を取っている。平塚市グループホーム連絡会に加入し、「注文をまちがえるレストラン」のイベントに利用者に参加している。社会福祉協議会の研修に参加し、地域包括支援センターの協力で認知症介護者サロンを毎月開催している。平塚市の介護相談員が毎月来訪して利用者と交流している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでおり、自由な暮らしを支えるようにしている。	サービス利用契約書に身体拘束をしない旨明記している。「身体拘束等適正化のための指針」を作成し、それに基づいて研修を実施している。玄関は安全のため、家族の同意を得て施錠しているが、利用者が外出したい素振りが見えた時には、職員が付き添って対応し、ユニットのドアは開放している。安全のため夜間センサーマットを使用している方がいる。車いすを利用している方もできるだけ食堂の椅子やソファに移乗している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護に関する研修を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。成年後見の必要な人には活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を充分とって丁寧に説明している。特に利用料金や、起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについては、詳しく同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の派遣の受け入れや、ご家族には面会時や家族会等で常に問いかけ、何でもお話しいただけるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い、反映させている。	運営推進会議や来訪時、電話などで家族の意見や要望を聴いている。家族会を年1回運営推進会議と同時に開催し、法人支援のもと、多くの方の参加があり、意見や要望を聴く機会としている。介護計画の見直し時にも家族から話を聴いている。家族から寝ながらテレビが見られるように居室のテレビの位置を変えてほしいとの要望があり対応している。事業所だより「なでしこ」を発行して家族に郵送し行事などの様子を写真入りで伝える予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のフロアーミーティングに職員が全員参加し、職員の意見や提案を聞く機会にし、反映させている。	毎月のユニット会議や毎日9時から事務所で行われるユニット合同の申し送り時に、職員の意見や要望を聴いている。管理者は半年ごとに職員と面談し、要望を把握している。管理者は今年8月から勤務しており、全体研修を毎月2～3回実施して職員のスキルアップと意思疎通を図っている。管理者は次世代へ向けて職員が働きやすい事業所にすべく業務の見直しや優先順位について提案し、職員と積極的に対話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修や外部研修計画を作り、目標を持って働ける環境を整備している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中途採用時研修を3日間受け、1ヶ月間の職場研修を受けることができる。新人OJTの実施（自己評価、定期的面談）。課題に対する具体的取組みの見直しを行います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村単位のグループホーム連絡会に参加し、その中で相互研修を設け、質の向上に励んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、またご本人にグループホームを見学していただき、他のご利用者と一緒にし、ご本人に受け入れられるような体験をしていただいたり、入居を目的とした通所デイサービスの利用でなじみの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前の話し合いから次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人、ご家族の実情や要望をもとにその時点で何が必要かを見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を支援されるのみの立場におかず、ご利用者の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮らしの中で分かち合い共に支えあえる関係を築いていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、ご本人を支えていく為の協力関係が築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで培ってきた人間関係や、社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないよう、知人、友人や商店、行きつけの場所等と、ご本人がつきあいを続けられるように実際に会いに行ったり来てもらったり、あるいは出かけていく場を積極的に作っていききたい。	毎月友人が来訪される方がいる。来訪時には居室でお茶の接待をしている。手紙の取次ぎをしており、携帯電話を持っている方もいる。絵手紙の先生をしていた利用者が、継続して絵手紙を書き続けて、他の利用者と一緒に楽しんでいる。お盆やお彼岸に家族と墓参りに行ったり、法事に出掛けたり、お孫さんの結婚式に参加される方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う同士が過せる場面づくりをする等、ご利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。年長者として長年培った、人とうまく付き合う力、助け合う力、かばい合う力、調整力等を発揮できるよう、ご利用者同士の支え合いを引き出し支援していききたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時のお見舞いに行っている。サービスの利用が終了された方も、行事に招待したり、遊びに来てもらう等、継続的な付き合いができるように心掛けていきたい。 退去されたご家族がボランティアにいらっしゃいました。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式やパーソンセンタードケアを活用して把握に努めている。発言力のあるご利用者だけでなく、一人ひとりの表情や行動の中にある、その方の希望や意向を把握できるよう努力します。	基本情報・アセスメント表や日々のケア記録から利用者の意向を把握するよう努めている。利用者と1対1になる入浴時などにじっくり話を聴くようにし、家族から把握することもある。意思の把握が困難な方には、表情や態度から把握するよう努めている。リビングが広くソファがあり、利用者がのんびりくつろいでいるときに、職員が寄り添って聴くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前にご自宅に訪問したり、ご本人やご家族、関係者等から聴き取るようにしている。利用開始後も折に触れ、ご本人やご家族にどのような生活をしてきたかを尋ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の部分的な問題や、断片的な情報の把握に陥らず、一人ひとりの一日の暮らしの流れに沿って、ご本人の状況を総合的に把握していくことに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントで必ずご本人の意向を伺っている。ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング等カンファレンスを行っている。	まず利用者や家族から基本情報などを収集し、初回介護計画を作成している。3ヶ月で見直し、利用者、家族、医師や看護師、管理者、職員などの意見を反映させて介護計画を作成する。1ヶ月ごとにモニタリングをして、短期は3ヶ月、長期は6ヶ月、変化ある時には、その都度見直している。ユニットごとに担当者会議を実施し、日々の支援については個別サービス記録に記述し情報を職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス記録に職員の気づきや、ご利用者の細かな発言も含め記入している。介護計画に沿って実践されたか、それでどうなったかの評価を日常的に記入し、情報の蓄積につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制加算。通所介護を通し地域のニーズに応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、消防署や民生委員と意見交換する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、ホーム利用以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し、通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	協力医は内科と精神科で、毎月（緊急時はその都度）往診がある。訪問看護師が毎週来訪し、健康管理している。訪問マッサージ師が主治医の同意書のもと週2～3回来訪している。現在は訪問歯科を受診する利用者はいない。協力医と連携して薬剤師が薬の管理をしている。眼科などの通院は家族が対応できない場合には職員が付き添うこともある。受診情報は、「診療記録」に記述して、職員と家族で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるご本人のダメージを極力防ぐ為に、病院医師と話をする機会を持ち、回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の気持ちを大切にしつつご家族と話し合い、ご利用者が安心して終末期を過していただけるよう取り組んでいる。状態の変化があるごとにご家族の気持ちの変化や、ご本人の想いに注意を払い、看取り介護の同意書を作成し支援に繋げている。	契約時に利用者、家族に「看取りに関する指針」を説明し同意を得ている。終末期には意思確認書を作成している。「看取り介護の同意書」「終末期やお看取りに関する意思確認書」を家族から受け取っている。研修はその都度管理者と看護師が実施している。今年は看取りの実績はないが昨年は2名の看取り介護を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当の勉強会（心肺蘇生法を含む）を実施し、体験、体得、習得できるよう取り組んでいる。また、夜勤時の緊急時対応についてマニュアルを整備し周知徹底を図りたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。地域の避難訓練にも積極的に参加し、地域の協力体制については自治会にお願いしたり運営推進会議で協力を呼び掛けている。	6月に日中火災想定避難訓練を実施している。11月に撫子地区津波避難訓練に利用者と一緒に参加して、指定場所まで避難した。家具の転倒防止や窓ガラスの飛散防止対策を実施している。緊急時用の飲料水や缶詰、おでんなど食品類を3日分、オムツやカセットコンロなど準備している。近くの法人本部の備蓄品も利用できる体制になっている。	夜間を想定した避難訓練の実施を望みます。消防署や地域の方の協力を得て年1回は実施されることを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、ご利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応に取り組んでいる。	接遇研修や個人情報取り扱いについて毎年内部研修を実施している。居室に入る際にはノックをして声をかけるようにしている。トイレで排泄に失敗した際にはバスタオルで覆い浴室に案内している。個人情報の含まれる書類は、事務所のカギのかかるキャビネットに保管している。利用者と呼ぶときには、家族と相談して名字または名前に「さん」付けで呼んでいる。リビングなどの共有部を中心として、幅広い廊下の回廊式となっており、居室やトイレ4か所を共有部と隔離してプライバシーに配慮された設計となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あいまいな尋ね方ではなく、選べるような尋ね方をすると自己を表現していただけるので、些細な事でもご本人が決める場面を作るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物や散歩、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、可能な範囲で柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的にはご本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定がしにくいご利用者には職員と一緒に考えて、ご本人の気持ちに沿った支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューはご利用者と相談しながら決める事もある。時には巻き寿司や、いなり寿司と一緒に作ってもらったりしている。皮むきや豆のすじを取ったりと、調理の下ごしらえと一緒にしてもらったりしている。職員とご利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。	昼食は法人の調理部から冷蔵や冷凍の調理済み食材を調達し、職員が湯煎をして提供している。主食と味噌汁は職員が作っている。朝食と夕食は、配食業者から食材を調達し、レシピに従って職員が調理している。「お刺身の日」などを設定し、利用者の要望に応じている。ドライブに行った際には回転寿司やファミリーレストランで外食を楽しんでいる。きざみやとろみ食にも対応している。クリスマスや誕生日にはケーキを注文したり、正月にはおせちを楽しんだりしている。毎月1日と15日は赤飯の日と定めている。食事作りに参加している方が1名で、他の方は下膳を行っている。庭で栽培したブロッコリーやネギを食材として使用することもある。職員は同じものを食べながら介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。配食業者のメニューを基本に献立を作り、カロリーや、バランスを参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり介助をしている。口腔ケアの重要性をすべての職員が事業所内の研修で理解し、肺炎を予防するきちんとした技術を身につけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をする事で、トイレでの排泄を促している。	排泄記録からパターンを把握してトイレ誘導し、自立を促している。トイレ誘導時の声掛けには、周りに気づかれないように配慮している。紙おむつを使用している方が3名、布パンツの方が4名で、その他の方はリハビリパンツを使用している。夜間は個別に対応して、トイレ誘導する方や夜間のみポータブルトイレを利用する方がいる。トイレは各フロア4カ所あり、それぞれ車いす対応で、利用者が近くで使用できるように配慮されている。排泄後にはホットタオルを使用して清潔に保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や、ヨーグルトを毎朝摂りいれたり、便秘気味の方には朝牛乳を飲んでいただくなど、自然な排便ができるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	生活習慣や希望に合わせて、入浴していただける支援に努めます。	1日おきに13時30分から17時頃までが入浴時間で、1日に4～5名の方が入浴している。その方の状態に応じて、全身清拭やシャワー浴、見守りだけと対応をかえている。お湯はかけ流しで使用している。しょうぶ湯やゆず湯を楽しむこともある。浴室はエアコンやヒーターが備え付けられてヒートショック対策がなされている。入浴を好まない方は時間や担当者を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息がとれるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を用い、専門家である薬剤師による薬の管理をお願いしている。しかし処方箋一覧表作成しスタッフが薬の内容を把握できるようにしている。変更時や飲み方についても薬剤師と相談しお客様に一番適した飲み方を検討している。また、服薬時はご本人に手渡しし、きちんと服用できているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。季節の花や、風景を楽しみ、遠出の外出や地域の行事参加等の楽しみ事をご利用者と相談しながら行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩に出かけている。一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて喫茶店に行ったり、ドライブに出掛け外食を楽しんでいる。	散歩は天気の良い日に適時実施している。車いすの方も一緒に出掛けている。平塚市の花菜ガーデンや平塚市総合公園などへのドライブを楽しんでいる。家族対応で散歩や外出される方もいる。近くの春日神社へ初詣に行ったり、箱根駅伝の平塚中継所が近くにあり、応援に出掛けたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て小額のお金を持っている人もいます。ご家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも、外出時や、喫茶店のお金などは、ご自分で払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。携帯電話をお持ちの方はご自分で管理していただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に掛けられた飾り付けがお年寄りにふさわしいものであったり、家庭的な雰囲気なものであるように気を付け、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。	建物は南向きで、リビングを中心に回廊式になっている。食堂とリビングは区別されており、リビングは広く、明るく、ソファや和室が設置されて、利用者はのんびりくつろぐことができる。廊下は幅広く、車いすが交差できる広さであり、利用者の歩行訓練の場にもなっている。洗面所の上が天窓になっており開放的である。リビングには利用者の作品や写真が飾られ、クリスマスツリーもあって季節感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置配置を工夫したり、同じ場所ですっと動かないというようなことがないよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品が居室に持ち込まれ、ご利用者の居心地のよさに配慮している。	クローゼット、エアコン、ベッドが備え付けられている。利用者は、照明やカーテン、仏壇、位牌、机や椅子、鏡、利用者の作品、家族の写真、テレビなど馴染みのものを持ち込んでいる。居室は広く、全室南向きで明るく日当たりがよい。清掃は職員が実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたらご本人の力でやっていただけるかを追及し、状況に合わせて環境整備に努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム「へいあんなでしこ」

作成日 令和 2年 1月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点・課題点	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35-13	火災や地震、水害等の災害時における避難訓練を年2回実施しているがシフト上で参加できないスタッフもいる。	火災や地震、水害などの災害時に昼夜を問わずお客様が避難できる方法を全職員がみにつけるとともに、地域の方々との協力体制が築けるよう、夜間想定での避難訓練も年間予定の訓練として取り入れて行く。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を兼ねて行う事や、自治会・地域の方々へ呼掛けを行い協力体制を作る避難訓練を取り入れて行く。 ・日中の時間帯でも夜間想定とした訓練を夜勤者中心に行っていく。 	令和2年度中に実施
2	49-18	お客様の重度化により介護業務が増えること等で、個別的に外出支援などの機会が少なくなっている。	買物や外食、外気浴・イベント行事への参加等、お客様個別のニーズに合わせたケア時間の確保。	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間シフトの導入や業務改善における業務効率化を図ることによりお客様と個別に関われる時間を創出する。 ・地域行事へ参加し、地域住人との交流の場をすることにより意欲の向上を図る。 	令和2年度中に実施
3	37-14	日々の業務に追われがちで利用者の希望の表出や自己決定支援への働きかけが少ない。	・お客様一人一人個性を尊重し、「出来ること」「出来ている事」「やってみようこと」等が導き出せるような関係性を作る。	・日々の日課の中でお客様一人一人の生活リズムを把握し、今お持ちの力が十分発揮でき、その方のペースに合わせて楽しみを持って生活して頂ける様支援していく。	令和2年度中に実施
4					
5					